平成30年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　足立　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学，理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，数学，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，数学A・B，理科）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	記述（漢字を含む）の無回答率が非常に高い。基礎基本が定着していない。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	語句の意味	
	努力が必要な問題	漢字の書き、現代仮名遣い	

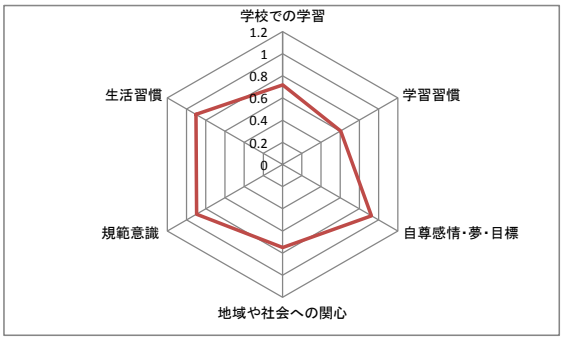
国語B	全体的な傾向や特徴など	記述の無回答率が非常に高い。文章の内容は理解できても、出題の意図に添って回答できていない。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の内容を理解する	
	努力が必要な問題	相手に的確に伝わるように文を書く	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、どの分野においても基礎基本の定着が課題である。 ・関数の問題に関しては無回答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・図形の問題に関しては、比較的得意な生徒が多いようである。	
	努力が必要な問題	・全般的に努力が必要であるが、特に関数に課題があった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	どの分野においても平均を下回っている。難しい問題に関しては、無回答率が非常に高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・数量や図形などについての知識・理解について、比較的得意な生徒が多かった。	
	努力が必要な問題	・全般的に努力を必要とする問題が多かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に正答率が平均より下回っている。思考力を問う記述問題では無回答率が非常に高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	一問一答や選択問題は無回答率も低く、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	思考力を問う問題や記述式の問題に課題が見られる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・家で計画立てて勉強をしている、家庭学習を1時間以上行っている生徒は全国平均を下回っており、家庭学習の改善が課題である。しかし、学校での学習においては、自分たちで立てた課題に対して、自分から取り組んでいた、また話し合う活動を通じて、自分の考えを深めることができたと答えた生徒が昨年度よりも増加しており、昨年度の反省を生かした教師の授業改善、生徒の意欲の向上が見られる。 ・自分にはよいところがあると答えた生徒が昨年度よりも増え、全国平均とほぼ同数であった。学校行事等の取り組みを通して、一人ひとりのよいところを認め合えるように指導したことの成果である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・一昨年度より実施している基礎学力向上週間を、本年度は毎月実施している。定期考査とリンクさせ、繰り返し学習することにより、基礎的な学力の向上を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の習慣が学習意欲に繋がることを踏まえ、週末課題や1日1ページノート等の、習慣定着化のための取組充実を図